

読むだけで、元気になるレポート

パートナー 村松 達夫

皆さん、こんにちは。最近はめっきりと冷え込む日が続きますが体調の方はいかがでしょう。さて今月もご笑読頂けば幸いです。

【今月の発見】

借金は大リーグボール養成ギブス!?

今回は借金をポジティブに捉える、ための面白い考え方をご紹介しますと思います。勿論、借金はしなくても済むのであればそれに越したことはないです。しかし事業運営上、どうしても必要な場合も当然ありますよね。これはそんな時のためのプラス発想方法なのです。さて結論から言いますと、“借金は大リーグボール養成ギブス”だということです。そう、マンガ「巨人の星」の星飛雄馬がつけていたというアレです。（「巨人の星」について詳しく知りたいは、今、本屋やコンビニで「ジョー&飛雄馬」という雑誌が販売されていますよ。）

このことを私に気づかせてくれた具体的な事例があるので、下記にご紹介します。

借金のないA社が年間キャッシュフローを0千円にしようと思ったら、単純に考えて、税引き前利益を0千円にすればOKです。（設備投資・減価償却費はないと仮定します）

ところが借金のあるB社が年間キャッシュフローを0千円にしようとする、借金分だけではなく、税金分の利益を出さなければなりません。これは例えば年間の借金返済額が30,000千円とすれば税率40%の時、**税引き前の利益を50,000千円出さなければならない**ということです。

つまりB社がA社とキャッシュフローで同額となるには、粗利で50,000千円よけいに儲けなければならないのです。さらにB社の粗利率が50%とするならば、売上は100,000千円多く稼がないといけない計算です。それでやっとならマイ0。

このような事例を読むと普通は「B社はなんて大変な会社なんだ!」とってしまいます。

ところが一概にそうとも言えないのです。何故ならB社は借金を完済した時、毎年20,000千円ものお金が浮いてくるので、その時点で一気に超優良企業になってしまうからです。

つまり星飛雄馬が“大リーグボール養成ギブス”のおかげでいつの間にか剛速球が投げられるようになったように、借金のおかげで借金のない会社よりもいつの間にか営業力がついていたり、いつの間にか超優秀なブレインが育っていたりするという訳なのです。

通常、借金は「ハンディキャップ」と考えがちなので、私はこんな風に考えてみました。